

# AI時代の仕事ポリシー： 「考えてから動く」から 「動きながら考える」へ

2025.10.29 鈴木

# アジェンダ

---

- 現代の仕事スタイルの対比
- 従来の判断軸とAI時代の構造変化
- 新しい知の流れ:「作る → わかる」
- 「わからない」を前提に進む勇気と実践の定義
- アイデアと生成スピードの逆転現象
- 新しい優先順位の軸
- 哲学的まとめと結論

# 01

## 1. 現代の仕事スタイルにおける 二つのポリシー

# 現代の仕事ポリシー: 実践型 vs 思考型

仕事の進め方における二つの対照的なアプローチ

## 実践型 (Do First)

- **とにかく手を動かす** : まずプロトタイプを作る
- **実践が完璧を生む** : 試行錯誤を重視する
- **わからなくてもまず形にする** : スピードとアウトプットを重視

## 思考型 (Think First)

- **すぐに手を動かさない** : 全体設計と基本理解を徹底する
- **基本に戻る** : わからないことは質問し、確認する
- **完成度と理解を重視する** : エラーや手戻りを最小化

## 2. 従来の判断軸とAI時代の構造変化

# 従来の判断軸: 重要度 × 緊急度

「どのタスクからやるか」は判断できるが「どうやるか」はスタイルに依存

区分	タスク例	推奨スタイル
A: <b>重要×緊急</b>	クライアント対応	すぐ実践
B: 重要×非緊急	サービス設計	熟考・設計型
C: 非重要×緊急	軽微な修正	手早く処理
D: 非重要×非緊急	曖昧なToDo	やらない選択も

# AI時代における実行コストの激減

AIの登場により、誤りや失敗を修正するコストが大幅に低下した

## 従来の戦略(産業社会)

- 実行コストが**高い**
- 最適戦略: 思考 → 設計 → 実行
- **実践がリスク** になる側面があった

## AI時代の戦略(AI社会)

- 実行コストが**低い**
- 最適戦略: **仮説** → **生成** → **学習** → **改善**
- **実践が学習** を最大化する

# 03

## 3. 新しい知の流れ： 「作る → わかる」

# 思考と実践の順序の逆転

AIは「わからないことを形にできる」能力をもたらした

## 従来の流れ

- わかる → 作る
- 理論先行、設計が必須
- 完璧主義、思考が中心

## AI時代の流れ

- 作る → わかる
- **実験先行**、反復主義
- 生成が中心、思考は修正フェーズ

04

## 4. 「わからない」を前提に進む勇気

# 「わからない」を前提に進む勇気

---

安全欲求としての「理解」から「行動の触媒」としてのAIへ

- 「わからないまま進まない」という原則は、**人間が失敗を恐れ安心したい** という欲求に基づいている
- AIは「**仮の答え**」や「**仮の構造**」を瞬時に生成し、その安全欲求を満たしてくれる
- これにより、「わからない＝動けない」から「**わからない＝動ける**」に概念が転換する
- AIが**不明確な部分を仮に埋める** ことで、行動が最短経路となる

鈴木メモ:「わからないから進まない」の「わからない」は、「人間が」わからないだけ。

# 実践とは「AIとの対話的生成（Co-creation）」である

AI時代の「手を動かす」は、対話とフィードバックのプロセスである

1. **仮に形をつくる** : 不完全でも、まずはAIを使ってアウトプットを生成
2. **AIに投げて意見をもらう** : 生成されたものに対し、改善点や別の視点を AIに問いかける
3. **修正・再生成** : フィードバックを元に、人間の意思決定で修正し、再び AIに生成させる

# 05

## 5. アイデアと生成スピードの逆転

# アイデアと生成スピードの逆転現象

---

ボトルネックは「生成(制作)」から「アイデア(方向性)」へ

- 昔:「アイデアはあるが、作るのが大変で形にできない」
- 今:「**すぐ作れるが、アイデアが追いつかない**」
- 生成(制作・実装)のコストは限りなく**ゼロ**に近づいた
- アイデア(方向性・意義・問いの質)の方がボトルネックになる
- 思考の量よりも「**問いの質**」が価値の源泉になる

06

## 6. 新しい優先順位の軸

# 新しい優先順位の軸： 学習速度 × フィードバック循環速度

「何を達成するか」ではなく「どれだけ速く進化するか」が問われる

## 従来の評価軸

- **タスク効率** : 一つ一つのタスクの完了スピード
- **締め切り** : 期限までの完成度
- **完成** : 最終的なアウトプット
- **終わらせる**

## AI時代の評価軸

- **[[学習速度]]** : 反復サイクルを通じて得られる知のスピード
- **反復サイクル** : フィードバックを回す頻度
- **進化** : バージョンアップの質
- **知を更新する**

# 07

## 7. 哲学的まとめと結論

# 哲学的まとめ:「理解」から「生成」へ

---

AI共創の時代における知的な勇氣とは

## ・人間中心の時代

- ・「わかるまで動かない」
- ・「理解がゴール」
- ・「正しさ」重視
- ・「知識の所有」

## ・AI共創の時代

- ・「**動きながらわかる**」
- ・「生成がスタート」
- ・「反復性」重視
- ・「知の共創」

# 結論: AI時代の仕事ポリシー

---

行動は「思考の触媒」である

- 考えてから動くのではなく、**動きながら考える**
- AIがいる限り、行動は「思考の代替」ではなく「**思考の触媒**」である
- 実務の指針: **PoCを最速でつくる** (プロトタイプ思考)
- 実務の指針: AIと対話しながら進化させる (対話駆動開発)
- 実務の指針: 完成よりも **反復速度** を重視 (Feedback Velocity)